

<b>第 1 回桜井市子どもまなか推進会議 会議録</b>	
開催日時	令和 8 年 2 月 13 日 (金) 14 時～16 時 10 分
開催場所	桜井市役所 3 階 災害対策本部室
出席者	委員 岡本会長、菖蒲委員、宮本委員、菊屋委員、下田委員、 中川委員、原田委員、吉田委員、丸橋委員、清水委員、 桐島委員、木口委員、高橋委員
	事務局 【子ども家庭部】 子ども家庭部長、子ども政策課長、保育教育課長、 子ども政策課主幹、子ども支援課子ども支援係長 【教育委員会事務局】 教育委員会事務局長、教育総務課長、 学校教育課長、社会教育課長 【福祉保健部】 福祉保健部長、社会福祉課長、 けんこう増進課副主幹
担当課	子ども家庭部子ども政策課
議題 又は 案件	1 案件 (1) 会長及び副会長選出 2 審議案件 (1) (仮称) 桜井市子ども計画について (2) 第 3 期桜井市子ども・子育て支援事業計画の変更について (3) 令和 8 年度以降の就学前教育・保育施設整備計画について 3 意見交換
決定 又は 取り纏め 事項	・会長及び副会長が選出された。 ・(仮称) 桜井市子ども計画の策定について、資料を提示し承認いただいた。 ・第 3 期桜井市子ども・子育て支援事業計画の変更について、資料を提示し承認いただいた。 ・令和 8 年度以降の就学前教育・保育施設整備計画について、資料を提示し承認いただいた。

## 議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等

### 1 案件

#### (1) 会長及び副会長選出

- ・事務局から、会長及び副会長選出について、説明を行った。

岡本会長、小寺副会長に決定。

<特に意見なし>

### 2 審議案件

#### (1) (仮称) 桜井市こども計画の策定について

- ・事務局より、(仮称) 桜井市こども計画に係る計画の概要とアンケート内容及び今後のスケジュールについて、説明を行った。

- ・委員より、こどもへのアンケートの結果について、回答したこどもにも分かりやすく公表すべきという意見があった。

#### (2) 第3期桜井市子ども・子育て支援事業計画の変更について

- ・事務局より、第3期桜井市子ども・子育て支援事業計画の乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)に関する量の見込みと確保方策の変更について、説明を行った。

<特に意見なし>

#### (3) 令和8年度以降の就学前教育・保育施設整備計画について

- ・事務局より、令和8年度以降の就学前教育・保育施設整備計画について、説明を行った。

- ・委員より、認定こども園の建設場所は決まっているのか、また場所の決定にあたり保護者の通園の利便性は配慮されているのかについて、質問があった。

- ・事務局より、具体的な場所は決定しており、決定にあたってはパブリックコメントで市民の意見を募集し、反映していると回答した。

- ・委員より、少子化が進む中で、0歳児保育室の増床や小規模保育事業所の整備を行う必要性について、質問があった。

- ・事務局より、少子化でこどもの人数は減っているが、保育ニーズは横ばいの状態であり、待機児童も生じているため、小規模保育事業所の追加や0歳児保育室の増床は必要不可欠であると回答した。

### 3 意見交換

- ・事務局より、全国と本市の少子化状況、国の少子化対策の動向及び本市の少子化対策の考え方、方向性について、説明を行った。
- ・委員より、教育費の無償化は進んでいるものの、出産に対する経済的支援など、少子化対策として直接的な支援策の検討も必要ではないかという意見があった。
- ・委員より、教育投資に対する無償化は進んでいるものの、それだけでは出生率の向上に結びつかないという現状を踏まえ、結婚、出産、子育てにおける個別の課題に対し、ソフトの観点からどのようにサポートしていくかをより深く検討する必要があるという意見があった。
- ・委員より、育児休業や子育てと仕事の両立についての不安の声が多いため、企業側の理解や環境整備が重要であるという意見があった。
- ・委員より、ひきこもり状態にある若者が増加しており、相談に訪れること自体が困難なケースも多いため、表に出ることが難しい方でも安心して相談できる場所や居場所の確保が不可欠であるという意見があった。あわせて、将来的な社会復帰を見据えた受け皿となる働き方の提示も重要であるとの意見があった。
- ・委員より、こどもの読書活動やブックスタートなど、親子の関係づくりがこどもの成長につながる取組を地域全体で進めていくことが重要であるという意見があった。
- ・委員より、子育て支援施策は子育て当事者でなければ分かりにくく、市の取組が市民に十分伝わっていないのではないかという意見があった。
- ・事務局より、情報発信の不足は課題として認識しており、先進事例等も参考にしながら効果的な発信方法を検討していくという説明を行った。
- ・委員より、自然体験、農業体験など、実体験を通じた教育活動がこどもの成長に重要であるという意見があった。
- ・委員より、幼児教育から小学校、小学校から中学校への接続など、教育段階間の連携を強化することが重要であるという意見があった。
- ・事務局より、結婚支援の取組として相談会や婚活イベント、セミナー等を行っている説明を行った。

・委員より、こうした結婚支援の取組について、市民への周知が十分でない可能性があるため、情報発信を強化する必要があるという意見があった。

資 料

- 【資料 1】 桜井市のこども・若者施策推進体制
- 【資料 2】 令和 7 年度桜井市こども施策推進庁内連絡会議委員名簿
- 【資料 3】 令和 7 年度第 1 回こどもまんなか推進会議委員名簿
- 【資料 4】 意見交換に関する資料
- 【議題資料(1)-1】 (仮称) 桜井市こども計画の策定について
- 【議題資料(1)-2】 こども計画が包含する内容
- 【議題資料(1)-3】 こども・若者の生活や意識に関するアンケート調査票  
(16～39 歳対象)
- 【議題資料(1)-4】 こども・若者の生活や意識に関するアンケート調査票  
(小学 5 年生・中学 2 年生対象)
- 【議題資料(1)-5】 こども計画策定の今後のスケジュールについて
- 【議題資料(2)】 第 3 期桜井市子ども・子育て支援事業計画の変更について
- 【議題資料(3)】 令和 8 年度以降の就学前教育・保育施設整備計画について